



堺市は子どもを どう育てようとしているのか

みんなで作るくろえまち堺市民1000人委員会編

市政レポート第二一号

二〇二六年二月

市民1000人委員会は2006年1月10日、堺市産業振興センターで第19回市政チェック学習会を開催しました。そのご報告をお届けします。参加者は74名、ご出席の市議は、木畑匡さん、西哲史さん、長谷川俊英さん、藤本憲さん、淵上猛志さん、森田晃一さんでした。

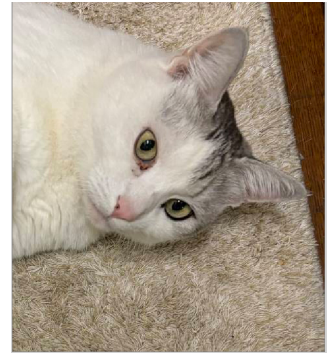
開会あいさつ

杉山美紀さん（市民1000人委員会事務局）

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

本日の第19回市政チェック学習会テーマは、「堺市は子どもをどう育てようとしているのか?」です。

私も10年以上、私立学校で教員をしております、それなりに子どもと接する機会というのはずっとあったんですが、堺市の公立の学校に勤めたことはありませんでした。堺市の教育政策がどう変化したのか、良くなったのか、悪くなっているのかというのは、あまり肌感覚として存じ上げません。なので、本日、私自身も勉強させていただこうかと思っております。よろしくお願ひします。



も く じ

*開会あいさつ	杉山美紀さん（市民1000人委員会事務局）	1
*報告：堺市政の子育て政策はこのままでいいか		
	淵上猛志さん（堺市議会議員）	2
	質疑応答	10
*報告：「不登校対策」と保護者市民		
	井前弘幸さん（大阪の教育を考える堺市民の会）	12
*報告：子どもと大人がともに地域で		
	小松清生さん（さくら今池公園まつり実行委員会）	14
*報告：学童保育で子どもたちは		
	松谷由紀さん（堺学童保育連絡協議会）	16
*グループ討論とフリー討議		17
*フリー討論で学んだこと		
	塩野直美さん（市民1000人委員会事務局）	19
*市議へのクエスチョンタイム		20
*市民運動報告		
	児童自立支援施設裁判が判決	
	廣田八重子さん（堺の子どもたちを守る市民の会）	23
	闘いは新たな局面へ	
	植田謙太さん（さかいユニオンビーナス分会）	24
*閉会あいさつ	山部 聡さん（市民1000人委員会事務局）	25
*市民1000人委員会第7期会計（中間）報告と賛同金のお願い		26

【報告】堺市政の子育て政策はこのままでいいか



湊上猛志さん（堺市議会議員）

今日は、「堺市政の子育て政策はこのままでいいのか?」というテーマで30分お時間をいただきました。主に子育て支援、子ども支援と教育についてお話しします。

堺の方ならどなたでも見たことあるかと思うのですが、引っ越しのサカイさんのトラックですね。このトラックのボディに青いシール貼ってあるのが見えますか?

「子育てのまち堺」これは竹山市長の時代の取り組みなんです。そのシールがまだ残っているのです。これ



は手前味噌ですけど、私のアイデアだったんです。当時は日経新聞とかが評価する子育てしやすい町ランキングで、堺市は大抵10番以内に入っていました。一番いい時は西日本1位にもなりました。当時は「充実した子育てを、この街、堺を

どうやって全国にアピールしようか」ということを一生懸命考えていたんです。それだけ良かった、自信を持っていたんですね。職員さんも胸を張っていました。ところがこのシールひび割れてましてね、もうすっかり今の堺の子育て政策を象徴しているかのようなそんな状況になってしまっております。今はこんな子育てをアピールしようなんていう機運は全くなくなりました。

堺市は子どもをどう育てようとしているのかについて話す上で、堺市の財政状況、ここ触れないわけにはいきません。その後、永藤市政の子育て政策の結果、そして今現場で起きている実態、最後にちょっとした子育て政策の担当職員の言葉を紹介したいと思います。

堺市は子どもをどう育てようとしているのか

まず、今日のイベントのメインテーマでもあります「堺市は子どもをどう育てようとしているのか」。私はこのプレゼンテーションをするにあたって、市の職員にこういうオーダーをいたしました。永藤市長が子育て政策をバサバサ切ったというのは皆さんご存知だと思いますので、「永藤市長が削った教育子育て施策を一覧にしてくれ」というオーダーをしたんです。すると、あれ削った、これ削った、と一覧が届きました。こんなに削ったのかと腹立たしく思いましたが、私をもっと腹を立てたのはそのタイトルです。「持続可能な財政運営に向けた取り組みのうち教育・子育て関係の効果額の一覧」です。削った額を効果額と表しているのが今の永藤市政であります。何を効果だと言っているのかです。どう思いますか?「どうしようもなく削ることになった、子どもに泣いてもらってほんま申し訳ない思いをした財源のお金の一覧」だ。そう言ってほしいです。しかし、これは彼らの言うところの効果額の一覧だそうです。

①堺市は子どもをどう育てようとしているのか

持続可能な財政運営に向けた取り組みのうち、教育・子育て関係の**効果額**一覧(例)

- ・児童自立支援施設基本計画を中止 29.4億円
- ・第2子の0~2歳児の保育料無償化中止 8億円
- ・さかい学びサポート事業の廃止 9504万円
- ・日高少年自然の家の廃止 5020万円
- ・小学校の便所改修工事の一部延期 1305万円
- ・中学校の便所改修工事の一部延期 1053万円

⋮

堺市は子どもをどう育てようとしているのか、一つだけ確実に言えることは「金をかけずに育てようとしている」これに尽きるんだなと思います。そしてもう一つは、教育・子育てにお金をかけないことが財政効果を生むと信じていることです。

それによって「こんな子育てしやすい町だったら、堺に住もうぜ」と言って、若い人たちが集まってきて、市民税とかいろんな税金を落としていってくれと。子育てにお金をかけることこそが投資であって、未来の財政効果を生むんだという視点が完全に欠落しています。

学校の便所の改修工事を延期したことが、「効果」だなんて。古い便所をきれいにして、小学校・中学校の子どもたちが喜ぶ。「こんなきれいな学校に行きたい。お母さん、トイレきれいだったわー、住んでよかったな」て、それって財政効果になりませんか。それは本当不思議です。

堺市の財政状況

とはいえ、「目の前のお金がなかったらもうどうしようもないんじゃないの」とおっしゃる方のために、これから財政の話をししたいと思います。

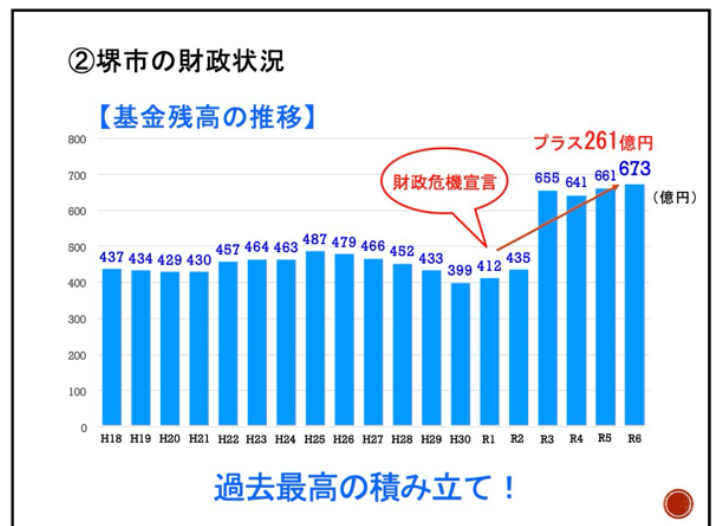
堺市の財政状況、これ**基金残高の推移**です。基金というのは貯金だと思ってください。単位は億円です。平成18年堺市が政令市に移行してから、令和元年を起点にし永藤市長が誕生する直前までずっと400億円ぐらいだった堺市の貯金が、突如655億円、そして今673億円に跳ね上がるんですが、跳ね上がる直前にやったのが財政危機宣言なんです。

財政危機宣言をしてね、261億円貯金増えているんですよ。これはいろんな方が「貯金増えたらええんちゃん」とおっしゃる方がいるのでそれは家庭の話。行政の仕事は、皆さんから預かった税金を貯めることじゃなくて、皆さんから預かった税金を市民サービスとして返すのが仕事です。だから、これだけ貯金が爆上がりしているのは仕事を全然やっていない証拠なんです。

5年間で261億円増えていますから、1年間あたり50億円強。先ほどの削減したものの、全部合わせて45億円ぐらいなんです。それ以上毎年貯めてるという計算なんです。

企業の内部留保と似てると感じる方もいるかもしれませんが、企業が内部留保どんどん貯め込んで「どこまで貯めるのよ、労働者に還元せいや」という声、まあまあありますよね。それよりひどいと思います。「貯めたお金をどう分配するか」企業、経営者、いろいろ悩んでいるかもしれませんが、こちらは代金払った商品を倉庫に眠らしてるようなものなのです。「我々がなぜ税金払ってるのか？」市民サービス受けるためでしょう。なんで商品のお金払うんですか、商品欲しいからでしょう。その商品くれへん、そういう状況が私は今の堺だと思っています。これ過去最高の積立なんですよ。

2つ目は、**市債残高**、これは借金です。借金残高の推移です。借金は少なければ少ないほどいいと思われる方もいるかもしれませんが、決してそうではありません。行政は、何か物を作る時に必ず借金をします。現金一括払いは絶対しません。今から50年使う図書館を作る



としますね。50年先まで使い続ける人って、この中何人います？来年一括払いしたら今いる皆さんで全額払うということなんです。来年引っ越す人は損ですよ。だから、50年ローンはできませんけれど、堺市の場合は30年ローンにして、30年間その図書館なり道路なり橋脚なりその公共施設を使い続ける人たちで分担して将来世代も含めて負担するんです。だから借金というのは意味があるんです。少なくとも確実に言えるのは、借金の多い少ないとか、増えかけて減ってるっていうのは、公共施設がどれだけ作られていってるかというバロメーターなんです。

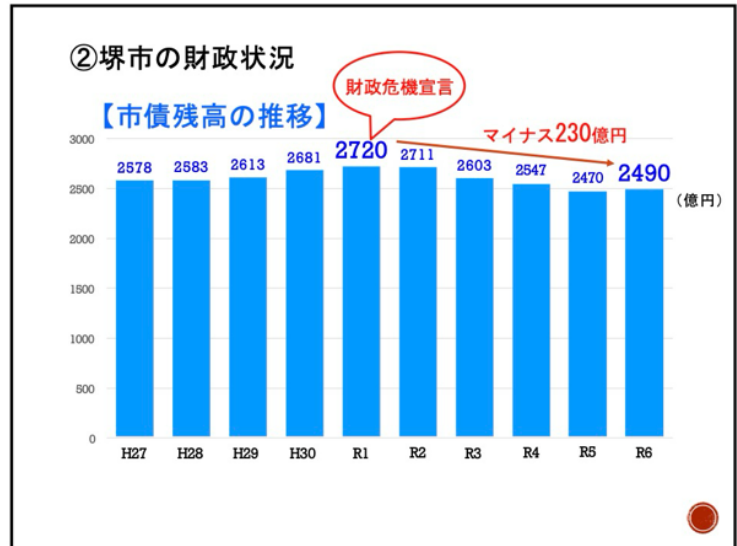
マイナス230億円になっている、これだけものを作らなくなっているこの5年間という証拠なんです。新たに借金をしていないからどんどん減っていったんです。230億円ってこれすごい額です。フェニーチェ堺は150億円です。市税収入も増えているので堺市の借金する余力って、むしろ増えていっているんです。

私の試算では、370億円借金追加でも将来の負担にならない。実は借金をするといつか苦しくなった時のために借金返済用の貯金って自治体は置いておくのです。その額と照らし合わせて、あと370億円借金しても将来の負担にならないぐらい余力があるのです。370億円あったら中央図書館も建て替えられるし、博物館も建てられる。

とは言っても、どのくらいが適度なのか、よう分からんという方に、他の自治体との比較をお出ししたいと思います。これは市民一人当たりの基金残高です。1人当たりの貯金残高は20ある政令市上から5番目、借金の少なさは上から4番目。少なくとも堺市は貯金の水準でいうとだいたい真ん中ぐらいなんです。じゃあこれより下のところでみんな財政危機なんですか？借金の多さというのと、令和元年時点、既に少ない方から数えて6番目なんです。

堺市の令和元年時点の水準というのは財政危機ですか？その下全部財政危機ですか？市長はみんな財政危機だって怯えて、「あれもやめろ、これもやめろ」

てそんな大騒ぎしましたか？してません。堺市だけなんですよ。その結果、子育て政策・子育て教育、もうバサバサ切られました。「建設計画が済んでるものをいきなりやめるわけにもいかへんし、だけど子育てって切ることができる」そうそう、こういうことです。



R6 市民一人あたりの基金残高		R6 市民一人あたりの市債残高	
大阪	136.9	相模原	152.2
仙台	128	浜松	156.4
岡山	102.5	さいたま	263.2
福岡	90.6	堺	276.2
堺	82.9	岡山	278.6
相模原	82.1	札幌	315.3
札幌	80	大阪	345.4
神戸	65.7	静岡	372.3
北九州	63.9	熊本	403.8
静岡	63.7	福岡	438.8
さいたま	59.1	神戸	454.3
京都	55.7	仙台	478.4
浜松	48.2	新潟	482.6
熊本	48.1	千葉	485
横浜	35.9	横浜	487.3
名古屋	35	川崎	501.9
千葉	26.6	名古屋	503.5
川崎	20.7	京都	575
新潟	12.3	広島	598.4
広島	10.7	北九州	725.1

(千円)

注: R1 堺 291.8 (右側市債残高欄参照)

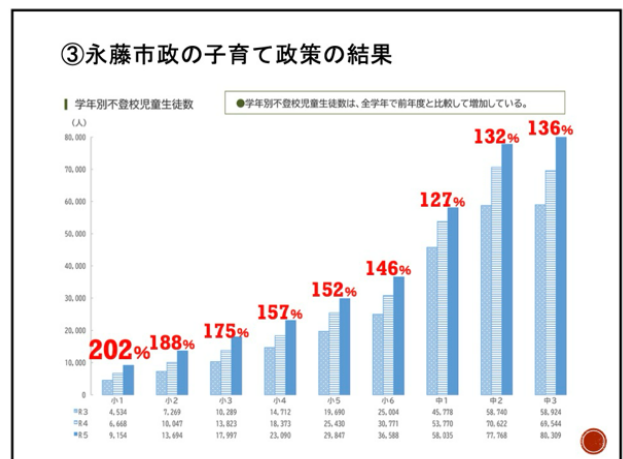
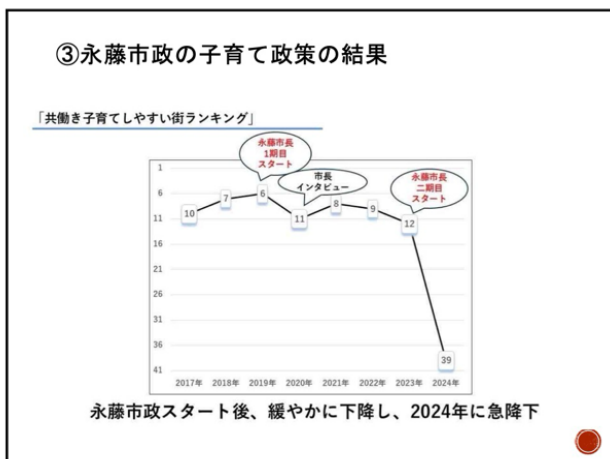
注: R1 堺 49.4 (左側基金残高欄参照)

永藤市政の子育て政策の結果

堺市が独自で全額負担してオリジナリティのある政策を子育てや教育に今まで増やしてきたのです。「全額堺市負担でもやろうぜ」と言ってる施策がいっぱいあったから、削りごたえがあったんです。1億円の予算の政策を切ったって、実は半分国のお金が5000万円入ってれば浮く額5000万です。ところが竹山市長の時代に「堺市単独でもやるぞ」といって子育てや教育に堺市全額負担の政策をいくつも作ってきたから、1億円の予算の事業を削ったら、1億円全額が浮くという事で永藤さんは削りごたえがあったんでしょね。それと、「竹山のやったことはおかしかった」と言いたかったのか知りませんが、どんどん削られた結果、全国でトップ10入りの常連だった子育てしやすい町ランキングも永藤市長になってから現在急落しまして39位です。これは削ったということもありますし、新たな政策を打ち込まなかった。一方で全国の自治体は競い合うように、新しい政策を打ち込んだ、堺は置いてけぼりを食らっているということを如実に示しているのかなと思います。

2つ目です。これは不登校児童生徒の推移です。これは全国の数字です。

トータルでいうと、令和3年から令和5年で41%、4割も不登校の子どもが増えているんです。私が問題にしているのは、41%も不登校児が増えているのにそこに対して予算を伴う政策を何一つしていないということです。手を打っていないです。ちなみに竹山さんの時は、教育支援教室、不登校の子どもがいきける学校の外の学びの場、堺市は当時3カ所だったんですけども4カ所目を作りました。お金かけてやったんです。永藤氏を増やしてないです。また、全国の多くの自治体が、不登校児童が通う教育支援教室を1年生から通えるようにしているんです。堺市は4年生からです。これについて、「1年生、2年生、3年生は不登校になってもすぐ学校に戻る傾向があるからいらないんです」と答弁しました。1年生、2年生、3年生受け入れようと思ったら、先生を増やさなきゃいけませんよね。お金がかかります。じゃあ1,2,3年生ってほんまにすぐ戻る傾向があるのかデータで示せて言ったらデータはありませんと。ええ加減ですよ。1年生、2年間で2倍になっています。不登校の小学校1年生。低学年は絶対数が少なくても伸び率が大きいんです。こういうところに手をかけない。一方で、いじめ不登校対策支援室というのを永藤市長が作りました。これは組織の組み替えからお金かかってないんですけども、そこで不登校対策何ができるのか。1ヶ月で病気以外の理由で3回以上休んだ子どもをピックアップして早期発見につなげていると答弁しています。月3回休んだ子は不登校の予備軍やと、抽出して調査するんです。そんなこと、市長部局に教えてもらわなくても、3日休んだら学校の先生は、「あれ、大丈夫かな」ってみんな気づいてる。そんな無駄なことをするのと、私たちは怒ったんですけど、未



だに存続しています。現場からしたら嫌ですよ。3日休んだなんて分かっているのに、市長部局から電話がかかってきて、「淵上君3日休んでるけど大丈夫?状況教えて」と。報告の方がめんどくさいですよ。

続いてが学力です。全国学力テスト、小6と中3で全国の学力学習調査のテストの結果、全国平均を100としたものに対して堺がどれくらいあるかという数値で、私はこんなのもうでもいいと思っています。上がろうが下がろうが。そんなにこだわらないですけど、永藤市長がこだわってるんです。学力を上げるんだ、それを教育委員会の一番の目標に掲げているくせに下がっているという状況なんです。手元のグラフ、表を見ていただけますか。永藤市長が発足した令和元年あたりから急激に下がっているのがわかると思います。小学校でやっていたマイスタディ授業、1億円の予算でしたが補習授業を永藤市長が辞めたんです。そこから急降下してるんです。これだけが原因とは言いませんけど、データを分析すると堺市は二極化している。低位層、勉強が苦手なことが増えている。「勉強が苦手なこのための政策をやめたら、それは増えるわ」と私は思っています。私は不登校の当事者なんですけど、うちの息子は「学校に行くの嫌やけども、マイスタディは楽しい」と言っていました。そのマイスタディを奪ったのは永藤市長です。

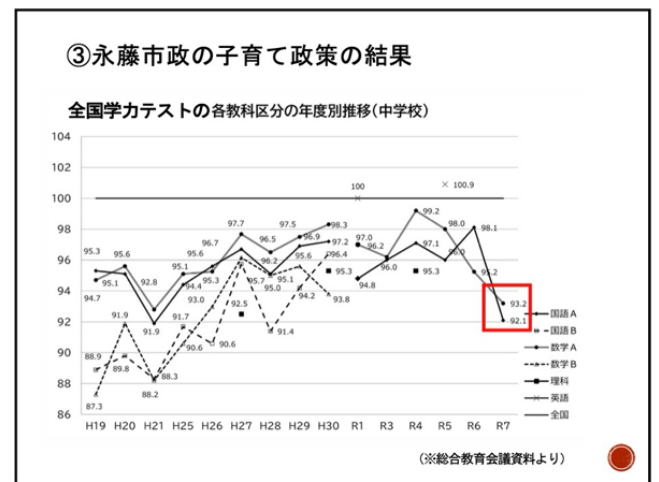
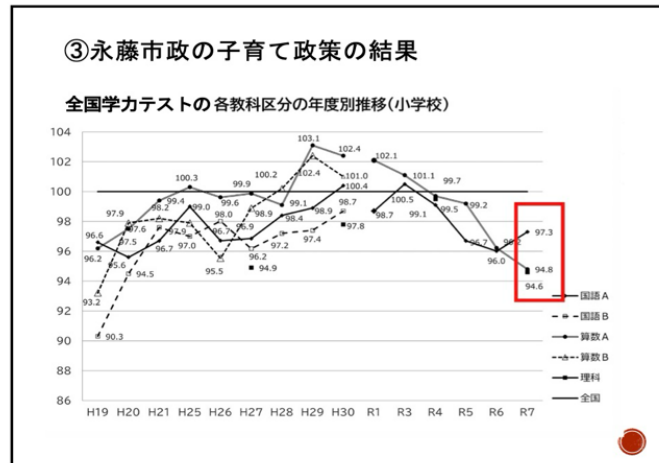
2つ目は中学校です。さっきは永藤市長就任直後から下がってるけど、これは令和4年ぐらいから下がってる。急落してるんですよ。令和4年から下がってる。この令和4年の中学校3年生は、小学校だったときマイスタディーがあった子どもたちなんです。学力を上げるぞということをして第一の目標に掲げながら下がっていつている。何か彼らのやっている目標に対するアプローチが間違っているんでしょね。

そんな永藤市政の子育て政策の結果なんですけど、学力が下がっていること自体は喜ばしいことはないけれども、非常に今現場で感じているのは、さっきみたいな財政、とにかく貯金貯めるぞってバーンって増やしたり、財政危機や財政危機やと言ってるから、職員がお金をかかるとしてみんな尻込みしてることです。「これ子どものために使いましょよ」って言わなくなってる。これは子育て政策だけじゃなくて、まちづくりの部局も大概そうです。

子育て政策の現場で起きていること

その中で起こっている現象を3つほど紹介させていただきます。

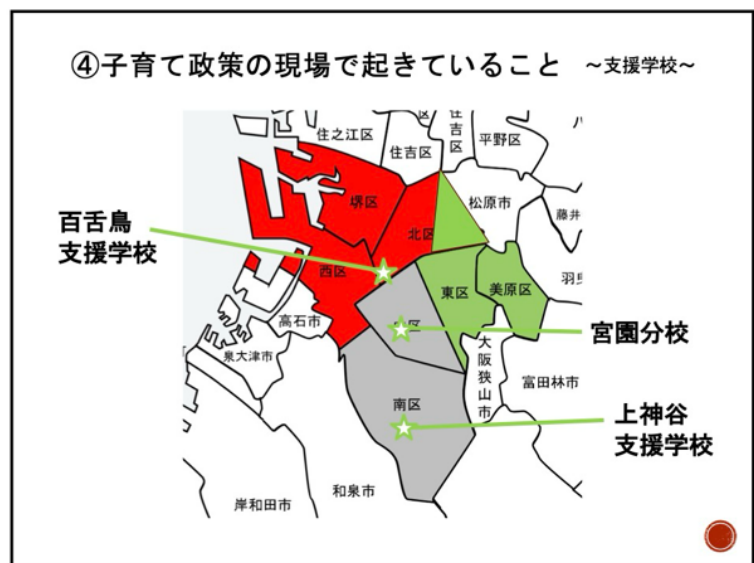
堺市にはもともと百舌鳥支援学校と上神谷支援学校という2つの障害児が通う支援学校



がありました。両方パンク状態でした。特に百舌鳥支援学校のパンク状態がひどくて、かつ老朽化していて、施設がひどい。上神谷はパンク状態と言いながらも、施設は比較的新しく素晴らしいものと言えます。百舌鳥支援学校は北区と西区の間ぐらいにありまして主に堺区・西区・北区の子どもが通っています。美原区・東区・中区・南区の子どもが通う上神谷支援学校は南区の南の方にあります。

皆さん、この地図だけ見て百舌鳥がむっちゃパンクしてて老朽化していて「それなんとか解消せなあかん」って言ったなら3つ目の学校どこに作ります。私なら堺区ですね。人口密集地の堺区の子どもが通える堺区の第三の学校を作って、西区・北区の子どもが百舌鳥支援。上神谷は立派やし、みんな満足度高いからそのままでいいかもしれないという中で、どういうわけか中区のだ真ん中の宮園に作っているんです。結果、どういう効果になっているかというと、東区と美原区と北区の東半分の子が中区にある宮園に通い、中区の子どもは上神谷に通い、北区に百舌鳥支援があるのに北区の半分の子らは北区を乗り越して飛び出て中区に通わなあかんっていうね。こんないびつなことが起こっているんですね。

すると「なんで私たちが転校しなあかんねん」て騒ぎになっています。せっかく作るのに、なぜこんなおかしな場所に作ろうとしているのか。宮園小学校が子どもの数がどんどん減って校舎、教室が余ってるからです。お金のかけるのが嫌やったからです。堺区にも公共の土地がある、例えば湊小学校という廃校になった小学校があります。その校舎は古いから潰さなきゃいけないのですが、そこに新設したらよかったと私は思っていました。しかし「いや、金かけられへんねん。宮園で校舎、まだ使える校舎が余ってるから宮園です」と、こんないびつなことになりました。



一時保護所の件です。虐待を受けた子どもや、非行等で家庭に帰れない子らが一時的に保護される施設です。平成 19 年、堺市が一時保護所を自前で設置したときは、定員が 20 人でした。それがどんどんパンクするようになって、令和元年 24 人、それがたった 3 年後、30 名の増員となり、そしてたった 4 年後に「あと 6 人増やします」といってまた予算が計上されました。急激にこの一時保護者に来る子どもが増えてるんですね。虐待されたりとか、そういうことが増えてるってことです。

いろんな社会的状況がそうなるのですが、その 6 名増やす予算が計上されている状況で、施設を見に行ったら、すでに 43 名の子どもが定員 30 人の施設に押し込まれてるんです。もう部屋がないので、普通の会議室に無理やりベッド置いて寝かせることになってたんです。そもそも家庭で虐待を受けていた子を無理やり一時保護所に入れるんだから、せめてこういう施設は家庭的な環境を作ってやらないといけないのです。なのに、「じゃあこの 6 名増やすのってどうすんの」という時に、今の堺市の職員は「お金をかけたくない、かけたなら怒られる」となってしまうんです。現場の職員はかけたいと思ってるはずですが

よ。でもかけたら怒られてると思ってる。何が起こったか。既存施設を活用しようとなったわけです。その活用しようとした既存施設は、使い終わった保健センターだったんです。どんなところが子どもの寝起きする場所なのかを見に行きましたら、この写真です。大きい一部屋で 80 平米の部屋やったんですよ。この 80 平米の部屋を区切って使うんかと思ったら、区切る予算がないからこれ一部屋なんです。このツンツルテンの床と味気ない壁、この 80 平米のただっぴろい空間に、家から連れて来られて保護された子が、一人で寝るんです。「こんなところ使うな」って私思ったんですけども、職員は「一生懸命家庭的にしますから」と言いました。出来上がったところ見に行ったらこんな感じでした。カーペット 1 枚敷いてね、簡易ベッドみたいなのを置いて、机と椅子がありました。こんなところで、虐待を受けた子が寝るんです。しかも、びっくりしたのが、この机とか椅子とかね、職員の寄付なんです。手洗いがあるんですが、配管が壊れてもう使えなくなった洗面です。お金がないから撤去できない。水も出ない洗面が取り残されている。こんなところで一人で子どもが寝るわけです。

④子育て政策の現場で起きていること ~一時保護所~



ちなみにこの施設は一時保護所のために作られた施設じゃないから、動線も監視が行き届くような動線になってないです。だから逃走を凶ろうと思ったら逃走できるとか、隣の部屋に男と女の子が保護されたら行き来できてしまうとか、全然配慮がないから、私は利用できる子があまりいないと思います。だけど職員は 1 人でも入れれば何人も張り付かないといけません。そして、食堂もないから、わざわざ今ある一時保護所から食事を運ばなくてはなりません。そういう職員の労力には考えが及んでいないんです。予算かけないということばかりで。こんなところで子ども落ち着きますかね。

3 つ目は**金岡公園プール**です。子育てに関連するものとして私は例示しました。供給開始

が 1960 年。2004 年に飛び込みプールが閉鎖し、2012 年観覧スタンドが閉鎖し、だんだんだんだん老朽化が顕著になり、とうとう 2022 年に幼児用プールが漏水で使えなくなりました。そして、23 年に変形プールが閉鎖し、この 23 年の営業終了後に大規模漏水が発覚し全面閉鎖になり、全面閉鎖後にじゃあどう整備するという計画がぼちぼち起き始めたんですが、2 年経った今も計画は出来上がっていません。こんなボロボロに老朽化進んでたら途中でもうそろそろ計画立てようとなるでしょう。金

④子育て政策の現場で起きていること ~金岡プール~
(関連)

沿革

- 1960年 共用開始
- 2004年 飛込プール閉鎖
- 2012年 観覧用スタンド閉鎖
- 2022年 幼児用プール閉鎖
- 2023年 50m変形プール閉鎖
- 2023年秋 大規模漏水が発覚し、全面閉鎖



全面閉鎖後、整備計画の策定作業に着手 (現在も作業中)

かかるからやらなかったんですよ。大体幼児用プールが閉鎖した時点でね、「幼児がプールという市民サービスを受けられなくなっているんだから考えようや」となるのが普通ですが、みんなお金かけるの嫌でね、先送りしに来たんですよ。

これ図書館とかでありますか、子ども図書コーナーが何かの事情で破壊されて使えなくなったけど、「まあ大人が使えるからしばらく使い続けようぜ」って言って、「子どもを使えんでもええやん」と。そんな発想絶対ないでしょう。結局やっぱり、プールってすごくお金かかる施設だからなんでしょう。プールも、きれいなものがあればその街住みたいな、そこで子育てしたいな、と思う一つの大きな魅力になると思うんです。

ともかくこんな形で「金を使うな、使うな」と、職員はそんな呪いにかかっている、お金使わないやり方から入るから、全然市民目線じゃないんですよ。本当にひどいです。

子育て政策の担当職員の言葉

私は、担当職員にも立派な人が多いなと思ってんですけど、このプレゼンをするにあたって、子育て政策の担当職員とざっくばらんにいろいろ話したんです。子どもをどう育てたい？この堺でいろんなことを言ってくれました。

- ・どんな環境にあっても、それぞれの目標に向かって頑張っていこうと思える社会にしたい。
- ・子どもの頑張りに応えてあげたい。
- ・どんなことも希望や夢を持っている町にしたい。
- ・分野に偏りなく、つまりなんかこう、貧困の子どもばかりとか力かけるとかじゃなくて、偏りすぎず幅広く、そして的確に、それぞれの状況の子に的確に施策を打ちたい。
- ・子どもの体験格差なくしたい。

だったら日高少年自然の家なくすなよって僕思いましたけどね。あれは都会の堺の子どもと田舎の子ども体験格差をなくすためなんですよ。

職員はみんな、思いはあるんです。子育てをしっかりとやりたい職員がちゃんといるんです。だけど金かけたらあかんと思うからもう手足縛られてるんですよ。それもハコモノを作ることに关してはもうすごい拒絶感がありますね。

この体験格差について、こういうことがありました。私は今、中学校のPTAの会長をしまして、すごく大規模校なので、コーラス大会をするのに体育館でも入りきらない状況になっちゃったんです。そこで思い切ってPTAのお金でフェニーチェ堺を借りたんです。保護者もみんな来れるようになったんですよ。子どもらもすごい生き生きして、「あのホールで歌えて、一生の思い出になった」って生徒代表の子が言ってくれて本当に感激しました。ただこれはね、三国丘中学校っていう大規模校だから1世帯あたりの負担500円ぐらいできたんです。これは小さい中学ではなかなかできないです。フェニーチェという立派なハコを持っている堺の強みを生かして、子どもたちのために予算をとって、体験させてあげる。私将来歌手になりたいとか、演劇したいとかそういう夢を持たせることって、お金をかけてできることもあるんです。そういうことをやってあげてほしいなと思います。

全国に「堺は子育ての街なんや！」って言ってね、職員が胸張って、アピールできるような街にしたい。「堺市政の子育て政策はこのままでいいのか」。子育て・教育は未来への投資やということで、一生懸命そこに、まずお金とそして何よりも心を込められる堺市にしたいな、皆さんと作りたいなと思います。そのことをお伝えして私の提起を終わります。

質疑応答

質問 中学校でPTA会長をしています。永藤さんは、金を貯めて何をしたいんでしょうか。ためて何かドーンってやってくれるのか、府に上納するのか、カジノのために使うのか、教えて下さい。

淵上議員 選挙に使うでしょう。そのお金を選挙に使うという意味じゃなくて、「増えました。貯金を増やしました。借金減らしました」というあのグラフを選挙で使いたいんじゃないかなと私は思いますね。「竹山さんは財政をボロボロにした、私が復活させたヒーローだ」ということで選挙で使いたい。それと、じゃあほんまに政策として何使えたらいいかという、よくわかりません。自動運転とかありますけど、規模感が全然違いますからね。

質問 あらゆる暴力防止プログラム、CAP というプログラムを全小学校と中学校の一部で提供しています。キャンプの授業を提供する中では、各学校園に行って子どもの直接の声を聞いています。本当に今の施策の話聞いてもいろんなカットされたことで、犠牲になっているのは子どもたちです。この予算を増やしてもらったり、さらに何か施策として取り入れていくときに何か考えとか、議員の皆さんで思われている子どもの課題というのはあるんでしょうか。

2026年の12月25日から、子ども性暴力防止法、というのが、もう動いてきます。それに関して何か施策をしていかないけないのではとの思いでいっぱいなんですけど結構まだまだ難しい社会の状況があるかもしれませんが、取り組むというところで動きそうな何かことはあるのでしょうか。

淵上議員 まず、子どものために何を使いたい、議会はどう考えているのかという、議員によって考えはバラバラなのです。さっき学校の外の不登校の通い場、教育支援教室の話をしましたけど、学校の中でそういう教室とか、安かろう悪かろうみたいな何でもタダでもらえるみたいな子育て教育ではなくて、質の高いものが必要と思っています。ちなみに先日文科省が性犯罪的な人のデータベースを教員採用で活用していない自治体はかなり多いみたいなことがネットで流れてたんですけど、堺市は活用しています。活用した上で、過去の懲罰歴、性的なことに関わらず懲罰歴とかチェックして、採用活動をしているということは、申し上げておきます。

子ども自身、やっぱり被害者にならない、あるいは加害者にならない取り組みの中で、CAPとかもすごく重要だし、子どもは権利主体なんだということを社会全体が知ることと同時に、何よりも子ども自身を知ることが大事だなと思っていて、私は子どもの権利条例を作りたいとずっと議会で言い続けています。まだ条例はできないんだけど大きな動きがあったのは、子育て会議という



子どもの政策を打つ会議があり、私、委員になったんですが委員になったときに言ったんですよ。「この中で一番若いのは40歳ぐらいなんて、なんで子ども子育ての話を決めるのにそこに子どもとか、今子育てしてる世代以内の30代、20代以内のことから、子ども委員に加えよう」と。

最初、永藤市長はすごい否定的でしたけど入れました、4人。ものすごい立派なことを言うんですよ。まあそれはちゃんと言うための段取りもあったからなんですけどね。すると大人たち委員がみんな発言するのありました。もう審議会の中で黙っている大人が山ほどいまして腹立っていたんですが、素晴らしいことだなと思っ

て、それは大きな一歩だし、そうやって子どもの意見を社会に反映させるのが当然のことなんだ、みたいなことを私は今頑張ってるんです。

今年、建設委員協会における子ども権利の擁護について質問したら、何ですかこれってびっくりされたんです。「あんたら公園作るでしょって。こういうやつ作る時に、子どもがいいんじゃないの?って。まちづくりに行くときにどうなん?」て言いながら、ちゃんと答弁して、守っていくという答弁をしまいいりました。その一日中重ねていく先に条例にしていけばなあと思っています。

質問 淵上さんのお話しは、不登校やいじめに対して支援学校や一時保護所などを拡充する予算を増やせというふうに聞こえますが、そこが問題なのでしょうか。

そこに焦点を当てるのではなく、そもそもなぜ子どもたちが学校に行きたくないのか、今の日本の学校の在り方が子どもたちを不登校やいじめに追い込んでるのではないのか。子どもたちを追い詰めている、今の学校や教員、そして保護者自身もが内面化している考え方、価値観そのものを転換する営みこそが求められていることなのではないでしょうか。

淵上議員 限られた時間で前市政との違いを示すために、教育支援教室などの不登校の子の受け皿を中心に話しましたが、不登校問題の本質的な原因は「学校・授業がつまらないこと」だと私も思っています（もちろん別の原因の不登校もありますが）。よって、学習指導要領や標準授業時数の見直し、それを基にした学校の年間授業時間数の見直し（※）、教員が授業準備と子どもに向き合うための時間と心の余裕を作るためのあらゆる取り組みなどが必要だと思っています。これらのことについては、度々議会でも取り上げており、さきほども言及したつもりでしたが、伝わりにくかったかもしれせん。

（※）年間授業時数について私が議会で取り上げたことが新聞記事になり、その後一定の改善が図られました。ご参考までに。

<https://www.sankei.com/article/20240504-P6VQTPM2FL4RFQBHYCXKJQH2Y/>

一方で、先ほどの提起で主に述べた「受け皿確保」も、私は重要だと思っています。これは現に不登校の我が子を見ていてもそう思います。先に述べた「本質的な対策」は、一朝一夕でできうるものではありませんし、それですべての不登校児童生徒が救われるわけでもないからです。よって、短期的な対処策としても、教育支援教室、校内教育支援教室、フリースクール等の受け皿確保は重要です。どちらかではなく、どちらも、やらねばならないものだという認識です。ただひょっとすると、前者は文科省マターの要素が多く、後者は各自治体と教育委員会でやれる要素が多いため、私が地方議員として発信する中では、後者が多めになってしまっているかもしれません。今後はそのあたりを

意識しながら発信しようと思います。



報告：「不登校対策」と保護者市民

井前弘幸さん（大阪の教育を考える堺市民の会）

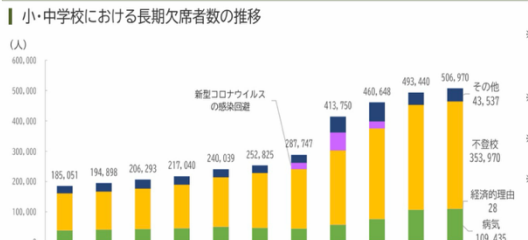
府立高校教員をしておりました。大阪の教育を考える堺市民の会を作って、この何年間か不登校問題を含めて堺市の教育が抱える問題について、堺市の教育市政に提言をしたり、現状について市民と行政が話せる機会を作ることができればということで、学習会等でいろんな関係の方とつながりをつくろうとしています。

去年の10月29日、文科省が2024年度の不登校の数が、小中学校で、35万人を超えたという統計を出しました。「不登校」35万3000人ですが、長期欠席者は全部で50万7000人もいます。「病気」「その他」を含めると50万人を超えます。

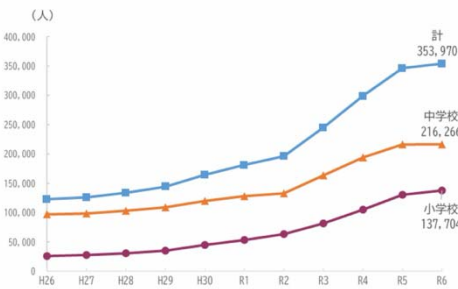


文科省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より（2025年10月29日公開）

- 小・中学校における長期欠席者数は506,970人(前年度493,440人)であった。
- このうち不登校によるものは353,970人(前年度346,482人)であった。



不登校児童生徒数の推移



期欠席者は全部で50万7000人もいます。「病気」「その他」を含めると50万人を超えます。2014（平成26年）度から、「不登校」だけでなく「病気」「その他」が急が増えています。生徒数全体は減っているのに。「病気」「その他」に分類をされている「不登校」の子どもたちもたくさんいると思われます。

小学校では、2006年度に23000人だったのに、2024年度には137000人。「不登校」が6倍以上になっています。対して、中学校では10万3000人から21万6000人。2倍以上です。小学生の増加率6倍というのは、尋常なことではありません。小学校では、2014年、2015年のあたりから急増しています。中学生の増え方と小学生の増え方が極端に違うことが分かります。

また、学校や行政側が把握している理由と、子どもたちが答えている理由が全く異なっていることが、文科省が発表している資料から明らかになっています。小学校で一番

多いのは、「勉強が分からない・ついていけない」です。しかし、次に多いのが、「きっかけが分からない」、「体の不調で学校に行こうとするとお腹が痛くなって動けない」です。この2つを合わせたら、50%を超える子どもたちが「分からないけども学校いけない」と答えています。ところが、学校・行政側の統計では、「無気力・不安」という形で集約をされています。それから、「勉強が分からない」や「先生のことが信用できない」という理由も含めて、子どもたちは、実際には多様でさまざまな理由をあげて「学校行かれへん！」という悲鳴をあげているのです。中学校も全く同じ傾向です。中学生も「なんでか分からんけど、学校行かれへん！」というのが本音のように見えます。行政・学校側の把握とは全く違うんです。

文科省調査をもとに堺市教委は資料「統計データから見る不登校の要因に関する考察」で、5割程度は学校や同級生との関わりは不登校にあまり影響をしていないとしています。しかし、そこから、子どもたち同士の働きかけではダメだから、「学校復帰以外のアプローチを考える必要がある」と対策ありきの答えを出しています。おそらくは対策を年度単位でかつ早期に出さなければならないか

らだと思いますが、子どもたち自身がどうしたらいいか分からないと苦しんでいる状況があるのに、そこが軽く扱われています。「学校に登校する」という結果のみを目標にはしないが、「児童生徒が自らの進路を主体的に考え」「最終的に社会的に自立する」という「方向付け」最優先の結論になっています。しかも、自己責任による方向付けです。

小学校6年生、中学2年生への「どんなきっかけがあったら登校できるようになったか」というアンケート調査の結果があります。登校できる「きっかけ」例がたくさんあげられています。でも、「どうしても行けたら行けたらどうか」の質問に、中学校でも小学生でも、半数以上の子どもたちがきっぱりと「ない」と答えています。

堺市のこれまでの「対策のまとめ」を見ても、たしかにスクールソーシャルワーカーの配置等がありますが、人数も少なく、「学校の中で対策を講じる」、「放課後登校」等現場の頑張りに任されている気がします。〇〇のためにこういう予算をつけて対策を取りまとめたとか、人的配置をしました

- 教員の視点と児童生徒の視点で、不登校の要因（学校に係る状況と本人に係る状況）が異なる
- 教員が、不登校の要因の本質・根本の見極めが十分できていない可能性がある
- 学校に係る状況に対する不安軽減や解消のための取組を行いたい意識を高める必要がある
- 不登校の要因として、きっかけとなるものがあるが、きっかけとなった以外の要因も重複していることが伺える
- 要因を単一に捉えるのではなく、多面的に捉えようとして、アプローチを考えていく必要がある
- 不登校の児童生徒の5割程度が、不登校の期間、先生や同級生（友だち）のことを気にしている
- 不登校にならない、学校に戻るきっかけとして、先生や同級生（友だち）との関わりをあげている
- 学校に通学したい、同級生（友だち）との関わりを求めている意識の表れと推察される
- 一方、5割程度は、「学校や同級生（友だち）との関わり」に「不登校」の関係に影響を及ぼしていないことも事実であり、学校復帰以外のアプローチの必要性（※）が伺える
- ※国においても、「不登校児童生徒への支援は、「学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することをめざす必要がある。」とされている。
- 児童生徒が抱える根本的な不安要素に着目し、「児童生徒それぞれに内在する不安」に気づくための対応が必要
- 不安に思う要因が多岐にわたっていることに着目し、それぞれの不安に応じた「多様なアプローチ」ができる環境が必要
- 先生や同級生との関わりに対する意識に着目し、「学校との繋がりを意識した対応が必要



陳情（文教委員会） 不登校支援について
陳情者：不登校支援 親の会有志「みくにで話そ」

【背景と現状】
三国丘小学校では毎年児童数が増加し、限られた部屋と人員で増加する不登校児への対応をしてくださっています。しかし現状では、保健室・通級・職員室を日によって間借りしており、落ち着いて過ごせる「決まった場所」がないため、子どもたちにとって大きな負担になっています。また、フリースクールが金銭面で利用しにくい家庭もあります。

＜陳情事項＞
1. 不登校児の専用のスペースを作ってください。
2. 専用スペースの設置にあたっては、1人あたりの面積や、スタッフの配置等について基準を設けてください。
3. 設置に向けて、教員やスクールサポーターなどの配置を拡充してください。
4. 物理的にスペースを確保できない学校については、確保

【将来に願って】最終的には不登校の子どもたちが自ら進路の決定をできるよう支援をお願いします。その第一歩として、「居場所」と「専任スタッフの配置」の両方を確保をお願いします。ただそれだけでも強く願っています。

特色のある不登校生徒支援の取り組み
「ながおのえん」（堺市立長尾中学校区）

- ①目的
・不登校児童や生徒の保護者が集まることできる場所を地域に設けることで、保護者が抱える不安や悩みを共有できる環境を整える。
・保護者が安心することで、家庭における子どもの生活環境を改善する。
・保護者と関係諸機関とのつながりが、これまで以上に進めやすくなる役割を果たす。
- ②設立までの経緯
・本校在学中の保護者から以下の提案があり、管理職に複数回相談があった。
・保護者の方が集まって、今抱えている悩みや不安を言い合える場がないか考えています。不登校になった当初はとても不安で、孤独で、どうしたらいいかわからず、周辺の人にも話しくいです。さまざまなことを気軽に話しかけられるコミュニティがあれば、それだけでも安心できると思います。自分自身も、進学についての知識や、日々の家庭での生活をどのようにしているのか、経験した方から話を聞くことができても助かりました。
- ・提案を受け、生徒支援委員会、職員会議で決定。学校の窓口は生徒指導主事が担当、活動内容を管理職、養護教諭、支援教育コーディネーターを中心に協議。その内容を保護者とも話し合っ決定。
・PTA委員会で報告、「堺版コミュニティスクール推進事業コーディネーター」を中心に活動し、PTAが支援することを決めた。

とかがほとんどないというのが実情です。「早期発見」「早期対策」という対症療法が主なものになっています。

先日の堺市議会で、三国丘校区の不登校サポート地域有志「みくにで話そ」の保護者が、スペシャルサポートルーム（SSR）の充実を求める陳情をされました。予算措置を含めて具体的な要望をされています。でも、これらのことについて、具体的な話はなかなか前に進まない。校長・教職員・保護者・地域の協力と行政のタッグが必要です。実現するには行政の積極的な関与は不可欠です。「ながおえん」という取り組みを以前にも報告させていただきましたけども、保護者同士が集まって学校と連携を取りながら「気軽に話をできる」「保護者が安心できる」場を作って欲しいという保護者の要望を具体化したものです。そういうものを「堺市版コミュニティスクール」（堺市教委）という発想を使って広げて欲しいと思います。

「大阪の教育を考える堺市民の会」では、この間、堺市の学校改革を進める市教委の「学校改革推進室」との話し合いの機会も作ってきました。「こういうことでできませんか」等いくつか例示をしながら、まずは保護者・市民と教委事務局が「ざっくばらんに話せる機会」や「窓口」をつくってくださいと要望してきたのですが、結論として「できません」となってしまうました。そこから先へ進めないというのが現状です。別紙で配っていただいていますけども、1月15日まで、次の堺市教育振興基本計画（5カ年計画）案へのパブリックコメントが募集されています。この機会に、自分の思いを一つでもいいですから、堺の行政に伝えていただけたらと思います。

報告：子どもと大人がともに地域で

小松清生さん（さくら今池公園まつり実行委員会）

私たちの地域は長尾中学校と五個荘小中学校区で、大和川が長尾街道に挟まれている地域でその辺だと思ってください。

「桜今池公園」と「川と遊ぼう大和川クラブ」が2つ大事な居場所なんです。常磐町、新浅香山小学校がこの北側で毎月活動し堺区の浅香山公園で活動しています。

私たちにとっては本当に待望の公園でした1985年あたりから言い出して、1993年にやっと実現したのが五個荘東小学校の南にある池を埋めてできた公園です。



2008年から桜今池公園、ワークショップをしようと住民有志が集まりました。場所が五個荘校区と東浅山校区の境目にあり、どちらの自治会も公園愛護会で世話するのが嫌やと言われたので、「大変やねん」ということで「私たちやらして」とどちらの校区も住民が入っていくような経過になっていくのですが、はじめからこのワークショップの2つの校区が参加していました。このワークショップに「子どもたちも参加したらええやん」と言いながら、せめて子どものアンケートを反映させたりして

しました。

五個荘歴史カルタにこの4つの校区が元五個荘ですよ、と呼びかけておりました。こういうところにできた公園なんです。「池なので池残してほしい」って一生懸命言うたんですけどこれは実現しませんでした。遊具もいっぱい出ていくつか実現しています。「広いグラウンドがあるよ」って要望をしてこんなワークショップの結論が出てたのです。ほぼ完成に近づいたところで耐震貯水槽もある、トイレもある。マンションから見下ろしたらこういう公園です。

まだ愛護会はできてないんですけど「公園できたからお祝いしよう」と言って、4月14日こういうの呼びかけました。その頃北区の街づくり会議とか区民評議会とかに入れてもらったので、こういうのを広報に載せてくれたのでいろんな人が来てくれました。元の地主さんとかも一緒に歩いていっぱい情報を教えてくれたり、池はこんなやってなっていくことを言ってもらったり、子どもたちも参加をしてくれある子はずっと活躍をしていたりとかっていつながりになりました。桜今池公園をもっと良うしていくためにどうしたらいいかなとか、いろんなことを語り合ったりしました。

その年愛護会が発足するんですが、「この木何の木、名札をつけよう」という会を呼びかけました。愛護会が発足をして公園ボランティアを続け、2021年からは毎月見回りしながらお掃除しようというのを定例化して、2023年ごろトイレの掃除がめっちゃめっちゃ悪いので業者を指導しなさいよって堺市を呼びつけていろいろやったけど、「住民がシルバー人材センターに登録してしてくれませんか」とか言って、その話やり取りをしたりしながらちょ



っとましになってきました。いたづら多いから閉鎖しているトイレを住民がやるからって鍵を預かって毎日開けて閉めてということをしたりとかということをしなが、公園祭りとかをやるようになってきています。そして今要望としていろんな遊具を少しずつ実現してきたり、近く与謝野晶子ブランドザクラが植えられるとか、鉄棒も長いことこういう状態からやっと実現しそうやとか、というようなことをしたりしています。

2019年7月に毎月だけではあかん、なんかしょうって呼びかけて公園の防災施設があるのでオープンにしようやっていると、あと防火をやろうということでは学校だけで配ったりして呼びかけましたが、祭りが実現をして楽しくできたというのを公園愛護会の広報誌「緑通信」でしたかね、そこに載せてもらった記事です。

公園愛護会というのは広さに応じて援助金があるのです。だからいろんなことをやろうと思ったらできるということで、そこから公園祭りに使っています。2024年公園祭りをやろうということで桜今池公園愛護会主催で呼びかけをしましてイベントをしました。ステージで公園を使ってグランドゴルフをしている人たちとか、太極拳をしてるとか、ここへ来て遊んで大和川クラブの発表したりとかそんなことをしたりして、人気は豚汁を無料提供でした。子ども食堂みたいに並んで大好評でした。

それを1年目は五個荘校区の自治会とかが注目をしてきていて「今年だけど、愛想ないわ、僕らも入れてや、もっと規模大きしょ」と言ってくれて五個荘と東浅香の連合と一緒にやってくれるイベントが実現をしました。楽しいイベントになって、初めから協力してくださっている大阪公立大学の先生が公園緑地を研究しておられるので学生さんに連れて協力に来てくださっています。こういう楽しいステージも実現をして区長は挨拶をしましたし、長尾中学の校長先生が一日中いてはって、一緒につきあって中学生の司会を見守っているという感じとか、Big Heart Jazz Bandもこれから参加してくださっています。



ビッグハートジャズバンド

マジック！ 長尾中学校校長先生と

北区長さんご挨拶 司会は長尾中学校生

大和川の魚



五個荘の歴史、今池の歴史を地元の人にも伝えていこうと今年の3月21日五個荘中学校にはこういうふうに掲示されていますし、長尾中学校でも変化が起こっております。



報告：学童保育で子どもたちは

松谷由紀さん（堺学童保育連絡協議会）



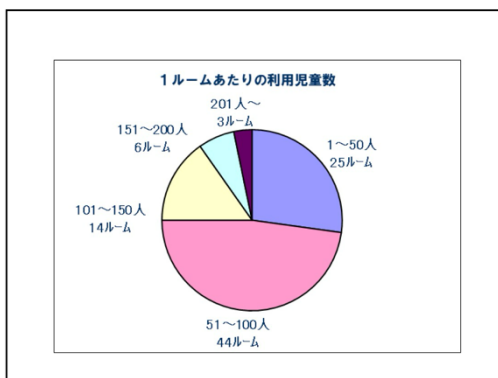
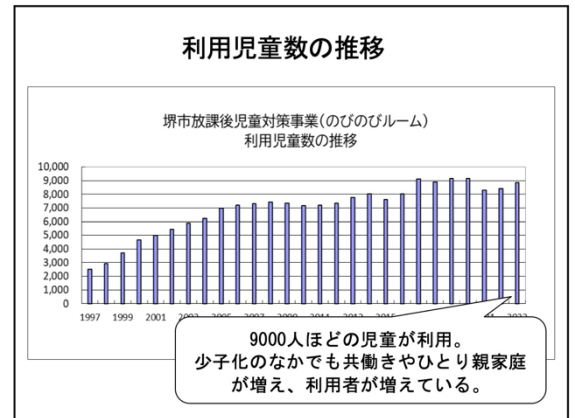
堺市の放課後事業は3つ、「のびのびルーム」「堺っ子くらぶ」「放課後ルーム」です。92校区毎に学校施設内で実施されています。

利用児童数のグラフをご覧ください。1997年に現在ののびのびルームがスタートしました。当時は2520名と聞いております。現在は9000名ほどの児童が利用しております。この数字はのびのびルームの児童数になりますので、堺っ子クラブや放課後ルームを入れると1万人を超える児童が利用しているという

状況です。少子化と言われているんですけども共働きやひとり親家庭が増えておまして、利用者数は今のところ年々増えているという状況です。

堺の学童保育が抱えている課題についてなんですけども、教育現場や保育の現場と同じで指導員不足ですね、あと大規模化があります。中には200名300名を超

える大規模ルームもありますし、その中で教室が足りないとか狭いと言った問題、そしてまた後ほど触れますが運営体制が学童保育は非常に不安定というのが堺の大きな課題となっております。



こちらの円グラフは1ルーム（1校区）あたりの児童数を表した円グラフになっております。利用児童数は校区によって本当にバラバラで偏りがあるんですけども、自分の校区に学童保育は通わないといけないので、このような形になってまして、全体の約4分の3が100名を超える児童が在籍しているという風になっております。そのうちの3ルームについてはもう200名を超えてまして、中には300名を超えるルームもある状況です。指導員の先生が先ほど足りないとお伝えしたんですけども、学童保育で子ども

たちはホッとして自分の羽を伸ばす場所というか、やっと解放される場所になるんですけども、指導員の先生が足りているからこそ宿題のフォローだったり、遊びを通して子どもたちと関われる、それが本来の学童保育かなというふうに思います。

指導員が足りていないという状況では想像もつくかと思うんですけども、十分に目が行き届かず宿題も支援できないですし、子ども同士のけんかやもめごと、やはりケガなども起こりやすい可能性が高くなっております。先生方は子どもたちが大好きでやっていただいていると思うんですけども、十分に関わる事ができないので、堺で指導員をやっていた方が他市に行ってしまうというようなちょっと残念な状況も生まれております。今、堺の実情として本当にこういうことが日々あちこちで起こっております。

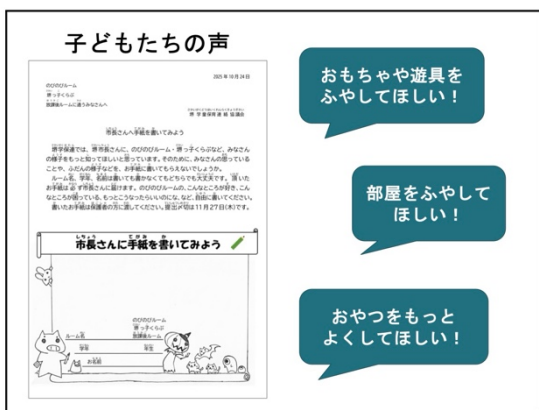
そして、繰り返される事業者選定についても少し触れたいと思います。堺としてもこの状況をど

うにかしなないといけないというところで、(堺が言うには)『民間事業者のノウハウを学童保育に生かして安定した運営をします。会社同士を競争させてより良い学童保育を作っていきます』ということで、契約期間3~5年の事業者選定を2015年頃に取り入れました。このQRコードを読み込んでいただいたら堺学保連のホームページに繋がりますので、運営事業者の流れの資料をダウンロードできるようになっています。運営事業者がころころ変わっているという、あり得ない状況なんですけども、こういったのが今の堺の学童保育の背景にあります。

このような中で実際にはより良い学童保育ができているかという、私自身は何一つメリットを感じていなくて、周りの保護者からもこのような声が上がっています。指導員からも管理的な保育にならざるを得ないというところで切実な声が上がっております。

少し暗い話ばかりになりましたが、本来の学童保育は魅力がいっぱいの場所で、うちの子どもたちは行きたくないと言ったことが1回もなく、3人とも6年まで通わせていただきました。親子でもいろんな行事、キャンプとか親子ドッジボールとかそういうのに参加させていただいて、楽しい思い出しかないなというふうに思ってます。

やはり子どもたちが解放される場所であること、あと異年齢での関わりってなかなか今やろうと思ってもできる場所がなくて、たてよこななめの関係は学童保育ならではの関わりだと思ってます。その中で心も体も大きく成長するこの学童の時期、学童保育での体験は今の自分に繋がっているということ、私の子どもたちも言ってくれています。



今、堺学保連では「子どもたちの声を聴こう」ということで市長さんに手紙を書く取り組みをしているんですけども、これが実際100枚集まりました。昨日、市長公室の方に「ぜひ子どもたちから手渡ししたい」ということを言ってきました。やはり子どもたちは「あそび・おやつ・部屋」ですね。これらの要望が圧倒的に多かったです。議員の先生方にも昨日配らせていただきましたので、これをぜひ市長さんに子どもたちの手から渡せるように、後押しをしていただきたいです。もちろん「のびのび楽しい」という声もたくさん集まったので、それも

嬉しかったです。そういう取り組みを今行っています。

さきほどお話しした事業者選定なんですけども、3つの放課後事業(のびのびルーム・堺っ子くらぶ・放課後ルーム)を2年後に統一しますということを、先日堺市が発表しました。長い歴史の中で統一に向けてこの2年が大事な時期になりますので、ここは子どもたちの声も含めて市長さんにしっかりと進めていってほしいということを伝えるために、今後も運動に取り組んでいきたいと思っています。皆さままた後押しをよろしくお願いします。ありがとうございました。

繰り返される事業者選定

増え続ける利用児童数

指導員不足・教室問題

財政問題

学童保育を
民営化しましょう!
民間の力を!!

↓

民間事業者を参入させ、ノウハウや企画力を活かした安定した運営をします!

募集方法は「競争入札」・契約期間は3~5年

定期的な見直しを行い、よりよい学童保育を目指していきます!

堺市

事業団は入札に参加
募集・選定・契約・
運営・見直し・再
募集については事務局
です。

←堺学保連
ホームページ

グループ討論・フリー討論

○ 児童自立支援施設というのがちゃんとあって、いいふうに働いていたと思うんです。それを、維新の人たちが、「無駄なものだ」と言わばかりに潰してしまっただけなんですけれど、それを住民運動として「そういう潰したらあかん」という運動も起こっていると思います。そういうことをもうちょっとちゃんとしなければいけないという意見が出ました。



○ 不登校について、中学校も小学校も含め非常に痛切に「どうしたらいいのか」という心配の声がありました。一方で、新檜尾台小学校のように、オリーブを学校であげて農業小学校みたいところで、地域の連合自治会とか地域とも一体となって、不登校の子がだんだん減ってきて今はほとんどいなくなった。学校へ行ったらお話聞いてくれ面白いっていう大変革が起こっている。ヒトモノカネを投じて夢のある堺の学校づくりを、というのがグループの一致した意見でした。

○ 皆さんおじいちゃんおばあちゃん、お孫さんの学校について話しました。他市でできていることが堺市でできてないのではということ、トイレがまだ和式の残っているところがあってそこでなかなか検尿を取れなくて一日突っ立ってたりみたいな話も聞いて、本当に胸が痛んだんです。先生方も、評価方式が導入されているという話も出てくるんです。チャレンジテストとか子どもたちを震え上がらせるようなことが行われてる。「ほんと子どもたちがのびのびと育つんやろか」というふうな危惧の声がいっぱいありました。親の立場としては市役所の組合の方も学校の先生の組合も頑張っしてほしいというふうなことだったんです。皆さん一緒に頑張りましょう。

○ 今、子育て真っ最中の方もいらっしゃるんですけど、1人が不登校になったっていう事例を聞きながら、「学校には行きたいんだけど、なんか行くとすごく自分自身が窮屈になっていく」というか縛られているような気持ちになっていて学校の中に居場所があったらいいのになっていう話が出たんです。その一つとしては、体の調子が悪かったら保健室には入れるけども、学校図書館には、学校司書がいるというのが、本来の図書館には居られる。なんですけども、堺市はなかなか毎日そこに学校司書がない今の現状が改善されていないんです。本を読んだり、ちょっと見守ったりっていう場所があって、教室に行けるっていう事例が他市でもたくさん出てるので、堺市も、早く学校図書館に一人の学校司書配置してほしいなっていう思いを持ちました。



○ 私自身が今なかなか活動はできていないんですけど、10年前から堺市の研修を受けて、子育て支援アドバイザーというものに一応資格を持ってるんです。子どもが生まれると、保健師さんたちが、若い子育ての悩んでるお母さんたちを訪問して、順調に子どもが育つかなどということを見守るっていうことをやってきたのですが、その訪問活動を、資格

のなくてボランティア意識のある人たちを集めて今やっるのがすごく危険なことだと私は思っています。私自身は、その訪問活動には参加しないで、地域での子育ての広場であるとか、子どもの居場所にあるところに出かけて行って、子どもの遊び相手をしたり、宿題の面倒っていうか見守りはしてるのですが、子どもが生まれた時から子どもが幸せに暮らしていける、お母さんも地域の人も、子どもを見守れるそういう施策をちゃんとやってほしい、というふうに思いました。

討論から学んだこと

塩野直美さん（市民 1000 人委員会事務局）

私自身、中学 3 年生から下が保育園の年長さんの 3 人の女の子の子育て中でして、次女が 3 年生から不登校になり今中 1 なんですけれども、働いていますので学童保育もそうですし、本当に今日の発表、すごく切実だと思いながら聞かせてもらいました。



さっきのグループ討論の中でもお話させてもらったのですが、不登校になったその次女もやはり学校には行きたいみたいなんですけど、行くとちょっと息苦しかったりとか疲れてしまって帰ってくるともうぐったりして、しばらく行けないみたいな状態がずっと続いていたりもしていて、低学年の不登校は居場所がない、親が働いていると、「じゃあどうするんや」って。子どもを家に放っておくわけにもいかないので、ものすごい苦勞をしたのです。先ほど、堺市は、教育支援センターが高学年からということで本当に低学年の居場所という意味では、低学年から受け入れる場所を作ってほしい。ただ、4箇所あるとはいえ、北区から一番近いのが堺区のスクールポートなんですけど、送り迎えが必要だったりとかなかなか一人ではいけない。やっぱり各区に一つはあるなっていうのは思っています。北区役所の中にフィットという居場所がありまして、できた時は会議室の中の一つにちょっと、来たとしてもそこの中を使うだけだったので、「それやったら家におったほうがいいよね」みたいな場所だったんです。そこも、ちょっと親からの声を聞いてくれて、おもちゃを置いてたりとか、専用スペースを作ってくれてたりとか、そういう風にちょっと変わってはきてはいるのです。そういう居場所がいくつかできたらいいなと思っています。

あと、井前さんの学習会ずっと参加させてもらってる中で、高石市の小学校内の支援施設、教育支援員の方の報告を聞いたことあるんですけど高石市は府の予算で、不登校対策として学校内に試験的に教育支援施設を作って、そこに人を配置してるんです。それは、府の予算で作ったけど堺市は政令市やからつかないんですよ。堺市って政令市やから独自に府の取り組みプラスいいことができるはずなのに、それができないというのはなんでかなって思います。やはり、あの今日のお話聞いて、もうちょっとお金使ってほしいな。何も使ってくれない。「それやったら政令市である意味がないやん」というすごく悲しい思いになりました。

私は上の子は中 3 なので、その竹山前市長の時からすごく子育てに力入れてた時代を知っていて、今ドンドンいろんなものが切られている、というのは知ってるんです。でも今の保育園の同じママたちは、そういうのは知らなくて、「もうそれが普通だ、仕方ない」と思ってる人が結構たくさんいるのです。そのへんを「教育、子育てにお金をかけたならもっと良くなるんだよ」とそういう投資っていうのをもっと考えてほしいなっていうふうには思います。

ただ、私の周りにもワンオペで余裕のないお母さんたちすごくいて、いろんなところの情報も入ってこないと思うのです。私の場合は、学童も行ってたし、マイスタディにもお世話になってま

した。小松さんと繋がったり大和川クラブにも参加させてもらって本当にいろんな人に関わってもらって、子育てをさせてもらってる。その中でお母さんたちと繋がって悩みも相談できるんですけど、やっぱりそこに繋がらないお母さんたちがたくさんいると思うんです。だからそこをこう繋げるようなもの、学童も大切だし大和川クラブも学童保育も、やっぱり自由に遊べるとか、強制されなくて自分のペースで遊べるっていうのが魅力だなんてすごく思ってます。異年齢で関わられるっていうのも魅力。うちの子も同じ学年の子と同じことをするっていうのがすごく苦手なんですけど、異年齢の子の中だと、大丈夫だったりするので、そういう場があったらいいなと思いました。マイスタディとか、今池小まつりとかも、そういう地域の方と関わってもらうことで、そこが居場所になる子っていうのは絶対いると思うので地域も頑張るけど市政も頑張ってもらいたいっていうのは思いました。ありがとうございました。

【市議へのクエスチョンタイム】

Q 児童自立支援施設を潰しましたが、施設を作るという計画はないのですか？

A 淵上猛志議員 児童自立支援施設を潰しましたが元々施設があったわけじゃないです。作るという計画があったのを潰したわけです。改めて施設を作るという動きはありません。お金かけない人ですから残念ですが、まあそういうところです。

Q 新しい中央図書館の建設に向けての進行状況はどうなっていますか。堺区の図書館も作るということでしたが、これもどうなっていますか。

A 淵上猛志議員 中央図書館は相変わらず検討ばかりが続いており具体的な動きはないです。堺区図書館も同じです。候補地すら目処がついていない状況です。これもだからお金があれば土地買うとかいう選択肢があるはずなのですが、お金かけないことを前提にしているので、もう市の土地を使うか、市の土地がないんだからじゃあテナントでどっか入るか、そんなテナントないよ。これで終わるわけですね。

Q 堺市の社会的養護が必要な子どもたちの保護施設はパンパンで、新しい施設もひどいことがわかりましたが、そういった子どもたちを民間で引き受ける取り組みはあるのでしょうか。

A 淵上猛志議員 これはあります。要は民間で児童養護施設。ご両親を亡くしたりとか、虐待も含めて家庭で暮らせない2歳以上の子どもが暮らす施設が堺市内に4箇所、これ民間が運営しています。もちろん公金が入ってます。ここで一時保護してもらおうということはありません。あとは民間という意味では、里親も一時保護の引き受け手になります。一時保護って極めて緊急性が高いので「じゃあ民間の施設にどうですか」とか「里親さん、あの今日連れてっていいですか」とか言ってる時間があればもう市の直営してる一時保護所に本当は入れたほうが早いというケースがいくらでもあるので、やっぱりいくら民間の受け皿が広がっていったとしても、一時保護所は絶対的に必要な施設です。

Q 現在大きな問題になっている脱法行為。 堺市議会議員はちゃんと国保に入っているのか。 維新、大阪維新の会、16人のうち国保に加入している人数教えてください。



A 藤本憲議員 今大きな話題となっております。ほんまに腹立つ話やなど私は思っております。そもそも日本一高い国民健康保険料まで引き上げてきた人たち、人たちが自分たちは脱法的な手段で国保免れているというこの問題で当然皆さんの関心や怒りも強まっているだろうと思うんです。

大阪市会の方で、公明党さんが議会に照会をかけたら、誰がどうかはわからないんですけども、市議会議員何人のうち何人が国保じゃありませんでしたという数字は出たみたいですよ。他の自治体でも、同様に、そういう数字を出してくれてる自治体もあれば、それは個人情報なので教えられませんとしている自治体もあります。私達も年末に照会をかけたんですけども、堺市議会は、出してもらえませんでした。

でもう一つ、確認しておかないといけないのは、単に国保じゃないからイコール脱法的な行為かというところではなくて。問題になっているのは、実体のない団体を作って、そこに理事として就任するという形の役職を持つことで、社保に加入している。これが問題なわけですから、単純に社保に入っている人数イコール全員悪い奴らという話ではありません。そこは前提とした上で、やはり本当にそういうことを行っている議員がいるのであれば、本当に市民たちへの裏切りですし、議員としての資格が問われる問題ですからこれもぜひ皆さんからも、これは声上げていただけたらなと思っております。堺市の方に、どうなってるねん、実体ちゃんとおあるんか、社保に入ってるなら社保に入ってるでその正当性をちゃんと示せるのかってところを、周りの声掛けれる議員にも確認したりとかですね、あの議会の方にもその数字出せと、言って頂けたらなというふうに私達の方では思っております。

Q 2027年の堺市長選挙に、今日お越しの議員さんのなかで挑戦される人はいませんか。市長選の展望は、自民プラス維新政権でどうなりそうでしょうか

A 森田晃一議員 いやこれ言えてたら、もうすでに公表してるんですけど。なかなかまだ早々に解散して、また総選挙っていうお話ありましたけども、これからの情勢の転がり次第で、このへんも変わってくるのかなと思うんで、今の時点で、次の市長選挙の情勢がどうなってるかというのが誰もわからないわけですから、ちょっとなかなかここで断定して言いづらいです。少なくとも今の市長は変えなアカんと、いうところで一致してると思います。ぜひまた力合わせましょう。

Q 学童保育のプロポーザル方式について、どう評価されますか。子ども策は、効率化で測るべきではないと思うのですが、教育子育てよりも、基金残高を増やすようなトップによる学童保育の民営化をどのように考えてるでしょうか。

A 森田晃一議員 このプロポーザル方式については、個々の議員によって考え方が色々だと思うんですけど、私はプロポーザル方式の導入は反対でした。ただ、もうすでに導入されているということで、この方式の中で、学童保育の環境改善だとかいうことは求めていかないといけないと思うんです。少なくともこの基金残高を増やすようなトップによる学童保育のあり方っていうのは、基本的には違う考え方は持っています。あまりにも学童保育、子育て支援に対して今の市長はお金を投じなさすぎると思っています。

中心市街地の活性化だとか、駅周辺の活性化の話が出てきています。当然再開発だとか、街の整備っていうのは一定やっていかないといけない面はあると思うんですけども、やっぱりそこだけに集中してしまうと、当然それ以外のことがおろそかになっていくと思うんです。大阪市の方を見たら、堺市よりも人口多いですけども、大阪市の中でも人口が集中している地域とそうでない地域。ウメキタなんかは、大規模に開発をして人をたくさん寄せてますけども、そううまくいってる場所ばかりではないのです。全国的に見たら、東京一極集中っていうことが問題視されてますけど、今大阪市の中でも一極集中が起こっている。これをまた同じようなやり方で堺市でやって、堺市の中で

も一極集中するような施策であれば、止めなければいけないと思っています。

やっぱり子育てだとか、大切な福祉、こういう社会保障の面ですね。こういったところにきっちりと分配をしながら、かつ、街の再整備もしていくっていうこういうバランスが一番大切だと思うのでその点を僕は重視しながらこれからこの学童保育についても、議論進めていきたいなというふうに思っています。

Q 今年度から中学校給食が始まったんですけど、中学生の子がいて不登校でたまに学校行って食べることがあって「揚げ物はふにゃふにゃで美味しくない」という感想が出てるんですけど中学校給食のことで何か問題とか、なんか意見があったら教えてください。

A 森田晃一議員 これも前回の1000人委員会の学習会でも回答させていただきましたが、子どもたちにアンケートをとったら「美味しい」と答えた子どもの割合の方が多かったんですよ。ただやっぱりこれでよしとするんじゃないで、もっともっと向上は目指していかなあかんという観点でこれから見ていかなあかんということは発言させていただきました。



中学校給食を作ってるセンター。第2センターの方で働いている

方の労働環境がちょっとよろしくないということが最近聞こえてきています。どういう状況だったかという、真夏あの40度越えの中で調理をしているという状況だったらしいんです。なんでそんなことになってしまったのかということなんですけど、私たちあの工場ができた時に内覧会行かせてもらってとっても綺麗で新しく最新の整備が整った工場だったんです、だけど一番たくさん釜が置いている部屋の空調整備について、「これ本当に大丈夫なのか」と聞いたら、その工場の方も教育委員会も「大丈夫です。天井もすごく高く作ってあり空気が循環するようになってます。」という説明を受けていたにも関わらず40度越えだった。というのが、最近わかってきまして救急搬送もされたということだったんです。なので、改めて教育委員会に、話を聞いて現場も調査して、次の議会でも聞いていかないといけないなと思ってのんです。つまり、そういう劣悪な環境の中で、給食が作られていたっていう実態がもし本当だったら重大な問題だということは今一つ言えるのかなと思っています。ですからその美味しい美味しくない以前の問題で本当に子どもたちに提供する給食が、そういう環境で作られていたんだったら大問題だ、なんでそんなことになってたのかと。いうことは聞いていかないといけないかなと思っています。

Q 今の中学校の給食のことにに関してなんですが、中学校の時間割が4時間目がちょうど12時35分に終わり、5時間目が1時15分から始まるんです。その間40分なんです。だからみんなで運んで、みんなで分けて食べて、もうバタバタしてはります。生徒たちが余裕を持ってお昼休みを過ごすという時間全くないです。時間割の改善なんていうのを教育委員会の方ではもうちょっと考えてもらってもいいんじゃないかなと思うことと、休み時間で起こってくる人間関係・生徒同士の関係をどう築いていくかっていうのは私達大人になってからの人間形成にもものすごく大きいと思います。

A 森田晃一議員 おっしゃる通りだと思います。私も中学校給食をやるべきだっていう立場でこれま

で議会の中で言ってきた立場の中で言うと、今中学校給食が始まって、もう時間が本当にタイトになってしまってるということについては、ある意味ちょっと責任を感じています。

この時間割についても、教育委員会とも何度か話をさせていただいたことあったんですけども国の学習指導要領の中でこの時間割っていうのはガチガチに固められちゃってるんです。なので今、何かどこかを時間を削ろうと思って休憩時間を延ばそうとすると、今度は子どもたちが学校から帰る時間が遅くなるという事になってしまう。どこかにしわ寄せが行くっていう状況の中で言うと、国がもっと学校のその教育についてゆとりを持った時間割の設定をしてもらわないとどうにもならないという現実、今僕自身もぶち当たってる状況なんです。ですからこのことは、議会の中、市議会だけではなくて、やっぱりちょっと国会議員にも働きかけて、もっと子どもたちにとって、休み時間だとか、給食を食べる時間っていうのがどれだけ重要な時間かっていうことももう一度考えてもらう必要があるのかなというふうに思っています。で教育委員会としてもこれはすごく悩ましい問題だというふうに一応認識はしていただいているので国に働きかけを進めていきたいなというふうに思っているところです。

市民運動報告

○児童自立支援施設裁判が判決

廣田八重子さん（堺の子どもたちを守る市民の会）



私たちは堺市を相手に行政裁判を行ってきました。税金の使い方がおかしいと素朴な思いから監査請求をし、それから早 4 年 16 回の裁判を経てようやくこの 2 月 20 (金) 大阪地方裁判所で判決を迎えることになりました。私たち原告側は勝訴すると信じています。

裁判内容を簡単に述べますと、堺市は児童自立支援施設を自前で建設する予定でしたが永藤市長になった途端それを中止し、今まで通り課題を抱えた子どもたちを大阪府立修徳学院に入所させ指導を受けるようになりました。この費用（人件費・施設運営費等）は 2006 年以降入所する子どもの数を全体で按分して負担してきました。

それが 2021 年、今後も大阪府立修徳学院であずかってもらう事を条件に新寮 2 棟（2 億 4000 万円）を堺市が全額負担して建設することになったのです。できた上がった 2 棟の所有権は堺市が拠出したにも関わらず、大阪府の物になりました。大阪府のぼったくりなのです。

堺市は独自で建設・運営するより安上がりで大阪府に子どもたちが世話になっているのだから全額負担は何らおかしくないと言っていますが、それは堺市民の受ける利益の範囲を超えて負担しているという主張で住民訴訟を行いました。

私たちは子どもの育成に費用対効果を考えたり、先ほど塩野さんの話の中でも出ましたように本来政令市でやるべき福祉業務を大阪府に任せるべきではないと考えています。「堺の子どもは堺で育てる」、課題を抱えた子どもの自立を市民全体で支える優しい街づくりを願っています。

繰り返しますが 2 月 20 日（金）大阪地方裁判所 1007 号法廷にて午後 1 時 10 分に判決が下されます。できれば多くの方に見守って頂ければ幸いです。

○闘いは新たな局面へ

植田謙太さん（さかいユニオン・ビーナス分会分会長）

私は「株式会社ビーナス」（堺区に本社）という、デイサービスを中心に介護・障害・医療系の事業を展開している会社に勤務しています。同社は2004年に創業し、2017年には関東にも進出、現在事業所数は約120か所にのぼります。会社は常に事業拡大を目指し、急速な拡大を重ねてきました。一見すると「成長を遂げてきた企業」かもしれませんが、私は2011年に入社し、その拡大の最中に身を置いてきました。



現場は慢性的な人員不足に疲弊し、離職者も相当数に上っていました。介護保険および障害福祉サービスは、国が定める制度のもとで運営され、人員配置基準やサービス提供時間、各種加算算定要件など厳格なルールが存在しますが、会社はそれらを軽視する形で「成長」を続けてきた実態があります。

それでも現場職員は、日々目の前の利用者やケアマネジャー等の関係者に誠実に向き合い、事業に誇りを持って取り組んでいました。2024年には、デイサービスの一業態および放課後等デイサービス業態を管轄する事業部長に就任しました。しかし、2025年8月、「人員不足」「サービス提供時間」「有資格者の名義貸し」等を理由として、翌月からの降格・減給、さらに実態のない遠隔地への配転命令を受けました。これまで組織として行われてきた運営実態を顧みることなく、私個人に責任を押し付ける形での処分であり、到底納得できるものではありませんでした。

改善の意思を伝えましたが、「君の立場で改善などあり得ない」「東海に行かなければ戻ってくる場所はない」「君が悪いことをしたことをみんな知っている」との言葉を浴びせられました。

その翌日から出勤することが出来なくなりました。心療内科で適応障害と診断されました。これは明らかな不当人事です。救済を求めて「さかいユニオン」に加入して対応を進めています。

さかいユニオンとして、不当な人事処分の撤回と原職復帰、パワーハラスメントの是正を求めて団体交渉を重ねてきましたが、会社側は弁護士を交代させ、最終的には「これ以上論じることはない」と団体交渉を一方的に拒否しました。更に、その最中、私の処分に対して声を挙げていた同僚であり組合員に対し、所属組織から排除するなどの明白なパワーハラスメントも始まりました。そのことについても、是非を問い、真に誠実な対応を会社側に求めています。

現在、この一連の経緯を振り返ると、その出発点には不正な運営体質があり、それによって肥大化した組織が、社会の中で本来あるべき姿から大きく歪曲していると感じます。又、人を中心に据えて考えたとき、「人の人生を何だと思っているのか」という強い憤りを禁じ得ません。どの角度から見ても、私には会社の対応に大義を見い出すことができません。

現在は労働委員会の場で是正を求め、2月に1回目、2回目は同年3月18日に控えています。新たにおおさかユニオンネットワークにも加入し、更なるお力をいただきながら交渉します。そして私の地位確認、現在進行形でパワーハラスメントを受けている組合員は損害賠償を求めて訴訟を起こすことも決意しました。

多くの支援者の皆様に支えられ、私は孤立することなくこの問題に向き合うことができています。心より感謝申し上げます。本件は単なる個人の処遇の問題ではなく、不当な人事やパワーハラスメントが許されない職場環境を築くための重要な労働問題だと思っています。誰もが安心して働ける社会の実現に向け、今後も公正な是正を求めて取り組んでまいります。

閉会挨拶

山部 聡さん（市民1000人委員会事務局）



今日のご参加の皆さん市政チェック学習会ありがとうございました。淵上さんの話を「子育ての街・堺」っていう引越しの車に貼られたのを見ながら、僕が子育てを堺に始めたのが19年前ぐらいでした。今子ども19歳なので長男が生まれた時は、まだ医療費助成制度っていうのは乳幼児医療費助成制度みたいな名前で2歳までが窓口負担ワンコインで病院にかかれるような時代でした。

その時から「もっとよくなったらいいのになー」って思いながら「赤ちゃんの時でもっと病気したりするよね」って思って署名集めたりとかをしてたら、小学校卒業まで拡充されて「大きくなって来たら大きい怪我するよね」って、案の定うちの長男韋帯切ったんですけれど。あの大きい怪我也「骨折とかしてくるからもうちょっと延ばしてほしいよね」っていうような署名集めてたら、今度18歳までになったっていうようなことがあったりとか。うち子ども4人いてるんですけれど、ちょうど保育制度が10年ぐらい前に変わる時に第3子がいる家で保育料が上がってしまうようなことになって、そのことを堺市議会の方で議員さんたちが取り上げてくださって。その時の市長、竹山市長なんですけど、「なんとかせなあかな」いうことで「第3子は保育料無償化にしよう」というようなことを議会で決めてくださって、そういうようなことで、「すごく子育てをしながら子育て支援の中で、すごく恩恵を受けてきたな」って、恩恵を受けてきたなーっていうふうに思ってます。「声を上げたら、上げたことがドンドン変わっていったな」っていう実感をしています。「今年こんなことがよくなるんやって、ワクワクしてたなー」っていうのも今日の映像見ながら思い出しました。

市長が変わってからは、「言うても言うても変わらへん」っていう感じ。僕保育士もしてるんですけど、ずっと、ずっと保育士不足でね、採用試験やっても来てくれない。派遣の人、入れてもすぐ辞めてしまうとかね。なんか「声上げても一緒やなー」って、ちょっと心の奥底で、「どうせ変わらへんし」っていうような、「ちょっと諦めてる自分もいてるなー」って思いながらも今日話聞いてたんですけど、やっぱり「こう政治が変われば本当に暮らしもいろんなことが変わるんやな

ー」っていうことを実感してきたものとしたら、やっぱり今日参加しながら「諦めたあかな」で、半分まだ諦めてますけど。でも声は上げなあかなって思いながら今日一緒に学習させてもらいました。ありがとうございました。



会計が切迫し、このままでは今期末で資金が枯渇します。

ご厚志をお寄せ下さると幸いです。

【1000人委員会の輪を拡げて下さい】

ワンコイン500円で市政を変えよう

お知り合い、ご友人にお声をかけて下さい。

賛同人は1111人（1月31日現在）です

みんなでつくろう ええまち堺 市民1000人委員会

【第7期会計決算報告（第3四半期中間）】

自 2025/05/01 至 2026/1/31

〔収入の部〕	賛同金収入	462,500円
	販売収入	23,341円（『市政レポート』）
	雑収入	2,617円
	収入の部合計	488,458円
〔支出の部〕	会議・集会費	8,740円（市政チェック学習会、事務局会議）
	通信費	300,223円（『市政レポート』学習会案内等）
	印刷費	300,163円（『市政レポート』等）
	消耗品費	37,445円（封筒、用紙等）
	広告宣伝費	4,320円（ホームページ費用）
	支払手数料	2,310円（口座徴収手数料等）
	支出の部合計	653,201円
	〔当期収支差額〕	▲164,743円
〔前期繰越金〕		445,676円 （第6期末：2025/4/30）
	〔残高〕	280,933円 （2026/1/31現在）
（内訳）	現金	68,104円
	郵便振替口座	165,423円
	ゆうちょ通常貯金	65,526円
	未払金	▲18,120円／計280,933円

2026年賛同金（一口500円）を本日、受付にてお支払いいただけます。
もしくは、今日以降に下記にお振込みください。

* **郵便振替口座：記号00930-7-番号325186**

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ

* **ゆうちょ銀行・通常貯金 記号：14010 番号：69946591**

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ

他の金融機関から振り込む場合は、

【店名】 ヨンゼロハチ（四〇八）**【店番】** 408

【預金種目】 普通預金 **【口座番号】** 6994659（7桁）



2026年2月発行

編集 市民1000人委員会

発行者 市民1000人委員会

〒590-0959

堺市堺区大町西三丁目1番29-502号

TEL 072-229-6331

FAX 072-242-6315

Email Q Y D04504@nifty.com



～ たたかう 市民 ～

振込先

◆郵便振替口座

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ

記号：00930-7-325186

◆ゆうちょ銀行 通常貯金口座

加入者名：シミンセンニンイインカイ

記号：14010 番号：69946591

※他の金融機関からの振り込みの場合は

店名：四〇八 ヨンゼロハチ

店番：408 種目：普通預金 口座番号：6994659



1000委
Web Page

頒価 300円